

コロンビア月例報告（9月分）

外政・内政状況

2012年10月
コロンビア日本大使館

I 概要

【外政】

- 3～6日 オルギン外相の中米5カ国歴訪
- 11～12日 国連人口基金（UNFPA）事務局長のコロンビア訪問
- 11～13日 UN ウーマン事務局長のコロンビア訪問
- 14日 エクアドル外相のコロンビア訪問
- 18日 ペニャ・ニエト・メキシコ次期大統領のコロンビア訪問
- 19日 カプリレス・ベネズエラ大統領候補のコロンビア訪問
- 25～27日 サントス大統領及びオルギン外相の国連総会出席
- 25日 日・コロンビア首脳会談（於：NY）
- 27日 日・太平洋同盟外相会談（於：NY）

【内政】

- 3日 新大臣6名の就任
- 4～13日 FARC との和平交渉の進展
- 16～24日 非合法武装勢力（BACRIM）首魁等の逮捕
- 17日 FARC系通信社「ANNCOL」（拠点：スウェーデン）元代表に対する判決
- 19日 今期国会における法案提出

II 本文

【外政】

1 オルギン外相の中米5カ国歴訪

3～6日、オルギン外相は、ホンジュラス、グアテマラ、エルサルバドル、コスタリカ、パナマを相次いで訪問、FARC との和平交渉の現状等につき、各国外相に説明したほか、二国間関係や地域協力の強化の方策について意見交換を行った。

2 国連人口基金（UNFPA）事務局長のコロンビア訪問

11～12日、オショティメン国連人口基金（UNFPA）事務局長がコロンビアを訪問、オルギン外相ら関係閣僚と、ミレニアム開発目標（MDGs）、特に、若年の妊娠予防と妊産婦の死亡率低下に対する取組について、意見交換を行った。

3 UN ウーマン事務局長のコロンビア訪問

11～13日、バチェレUN ウーマン事務局長がコロンビアを訪問、政府、国会議員、司

法関係者、女性の権利保護のために活動する NGO 関係者らと会合を行い、和平交渉における女性の役割等について、意見交換を行った。

4 エクアドル外相のコロンビア訪問

14日、パティーニョ・エクアドル外相はメデジン市を訪問、オルギン大臣と意見交換を行った。両外相は、中国（広州市）において麻薬密売の罪で死刑宣告を受けているコロンビア人2名に対し、広州市に総領事館を有するエクアドルが、コロンビアの領事事務のために便宜を図ることで合意したほか、年内に予定されている両国の首脳会談についての準備を行った。

5 ペニャ・ニエト・メキシコ次期大統領のコロンビア訪問

18日、ペニャ・ニエト・メキシコ次期大統領はコロンビアを訪問、サントス大統領と会談し、治安、国際組織犯罪、麻薬取引対策等で協力を強化すること、太平洋同盟等の地域統合を促進することで一致した。

6 カプリレス・ベネズエラ大統領候補のコロンビア訪問

19日、カプリレス・ベネズエラ大統領候補がコロンビアを訪問、サントス大統領と会談を行った。サントス大統領は、ベネズエラの大統領選挙プロセスにつき、コロンビアは中立的立場を維持し、二国間関係は、選挙に影響されないと述べた。

7 サントス大統領及びオルギン外相の国連総会出席

25～27日、サントス大統領及びオルギン外相らは、国連総会出席のため、NY 他を訪問した。サントス大統領は、26日、国連総会一般討論演説において、FARC との平和のための対話について言及した他、安保理非常任理事国として、シリアやハイチ等の国際情勢についても言及した。また、サントス大統領は、日本、英国、ノルウェー、トルコ、グアテマラ、ドミ共等との二国間会談を行ったほか、24日、カンザス大学及びカンザス州政治科学研究所等を訪問した。

オルギン外相は、ポスト MDG のハイレベルパネルに出席したほか、日・太平洋同盟外相会談やアルジェリアやNZ との二国間会談を行った。

8 日・コロンビア首脳会談（於：NY）

25日、国連総会出席中の野田内閣総理大臣及びサントス大統領は、二国間首脳会談を行った。両首脳は、昨年9月のサントス大統領訪日時に立ち上げにつき一致した日・コロンビア EPA 共同研究最終報告書の完了を歓迎するとともに、日・コロンビア経済連携協定（EPA）交渉を開始することで一致した。また、野田総理は、コロンビアにおける FARC との和平交渉開始を評価する旨述べた。

9 日・太平洋同盟外相会談（於：NY）

27日、国連総会出席中の玄葉大臣及び太平洋同盟4カ国（チリ、コロンビア、メキシ

コ、ペルー)の外相及び外相代理と会談を行った。コロンビアからは、オルギン外相が出席。今後、日本と太平洋同盟4カ国の間で、政治レベルの対話強化に加えて、高級事務レベルの対話メカニズムを立ち上げのために調整を行うこととなった。

【内政】

1 新大臣6名の就任

3日、カリージョ内務相、カルデナス財務・公債相、コリア法務相、レンヒフォ鉱山・エネルギー相、ウリベ環境・持続可能な開発相、アルバレス-コリア運輸相が就任した。

2 FARCとの和平交渉の進展

(1) 4日、サントス大統領は、FARCとの和平交渉を開始した旨発表、FARCとの和平交渉の第一段階として、予備的対話が終了、政府及びFARCは、「紛争終結及び安定的持続的平和の構築のための一般合意」に署名した。今後、第二段階として、非公開の会合で、最終合意に到達するための条件につき議論、その後、第三段階として、検証メカニズムと市民の参加を確保しつつ、双方が同時に合意を実施する予定。キューバ及びノルウェーがホスト及び保証人(garante)を務め、ベネズエラとチリもプロセスを見守る役(acompanante)を果たす。10月中旬までにオスロにおいて会合が開催される予定。

(2) 5日、サントス大統領は、FARCとの交渉にあたる5名として、デ・ラ・カジェ元副大統領、ビジェガス全国工業連盟(ANDI)会長、ナランホ前国家警察庁長官、モラ元陸軍最高司令官、ハラミージョ元平和委員、パール前環境相を指名した。また、サントス大統領は、18日、ハラミージョ元平和委員会委員を平和委員に再度任命した。

(3) 13日、FARC側は、交渉代表として、イバン・マルケス、エル・メディコ、ロドリゴ・グランダ(もしくは、FARC外交担当)、マルコ・カラルカ、アンドレス・パリス及び、米国で服役中のシモン・トリニダッドを指名した(いずれも通称)。

3 非合法武装勢力(BACRIM)首魁等の逮捕

(1) 16~24日、パラミタリーの残党で麻薬取引等違法ビジネスに従事する非合法武装勢力(BACRIM)首魁が、アメリカやベネズエラの当局の協力を得て、相次いで逮捕されるに至った。16日、メタ県プエルト・ジェラス市において、ERPAC首魁である通称「フランコ・フレディ」が国家警察の作戦遂行中に逮捕された。ERPACは、ビチャーダ県の支配地域を「ピハルベイ」率いる「リベルタドーレス・デル・ビチャーダ」に奪われ、現在は200名の構成員で、メタ県の麻薬取引等の違法ビジネスに従事しているとされている。

(2) コロンビア国家警察は、4年半に及ぶ追跡作戦を経て、18日、ベネズエラ治安当局、米FBI及び英MI6の協力を得て、同国タチラ州サン・クリストバル市において、通称：ロコ・バレラを逮捕した。同人は、EUからも引き渡し要求を受けている。ベコロンビア産のコカインをベネズエラ、ブラジルからアフリカ、欧州へと運ぶ密輸ルートに打撃を与えたと評価される。

(3) 24日、アンティオキア県タラサ市において、「エンビガード事務所」及び「ロス・ガイタニスタス」と連携して違法ビジネスを取り仕切っていた「ロス・パイサス」首魁で

ある通称「エル・プーマ」が逮捕された。「ロス・パイサス」は、アンティオキア県を中心に、200名の武装構成員を有しているとされている。

4 FARC系通信社「ANNCOL」（拠点：スウェーデン）元代表に対する判決

17日、ホアキン・ペレスFARC系通信社「ANNCOL」（拠点：スウェーデン）元代表に対し、8年の求刑が言い渡された。同人は既に1年服役しており、服役態度が良好であるため、減刑3年となる可能性があるとされている。

5 今期国会における法案提出

19日、政府は、今期国会（7月20日～12月16日）における法案を議会に提出した。主要法案としては、税改革、貨幣のデノミ（現行通貨単位より、千（000）を削除）、軍事司法改革、刑務所改革、選挙法改正、医療保険制度改革等が挙げられる。

（了）